



【職場】 埼玉県秩父郡横瀬町
【職業】 地域おこし協力隊

現在 埼玉県



赴任国 セネガル共和国



【赴任地】 ファティック州ファティック県
ファティック市

【職種】 幼児教育

【派遣期間】 2011年1月～2013年1月

日本一チャレンジする町でウェルビーイングに挑む 地域おこし協力隊3年目の挑戦

近藤 保子さん 地域おこし協力隊

Yasuko Kondo

地域おこし協力隊の近藤保子さんは、JICA海外協力隊での経験を活かし、地域におけるウェルビーイングの推進と啓発活動に取り組んでいます。毎月全戸に配布される『ウェルビーイング通信 めくとまる』を通して、日常の中で感じる幸せや町の魅力を発信中です。

町と人、そして自分の ウェルビーイングに向き合う

埼玉県横瀬町は、都心から列車で70分のアクセスの良さながら、人口流出という切実な課題を抱えている。この状況を打破するため、町は「日本一チャレンジする町・日本一チャレンジする人を応援する町」を掲げ、新しい風を呼び込もうとしている。

そんな横瀬町で、地域おこし協力隊（以下、協力隊）として全国でも珍しいウェルビーイング担当に任命されたのが、JICA海外協力隊経験者（以下、JOCV）の近藤保子さんだ。東京での生活の中で、横瀬町とウェルビーイングの取り組

みを知った近藤さん。「自分の経験が生かせるかもしれない、そして自らも新たな一歩にチャレンジしたい」と考え、協力隊に応募した。

協力隊の任期は最長で3年。2023年に着任した近藤さんにとって、今年が最後の1年となる。「移住当初から、町の方々の優しさに癒され、人間関係や生活環境にも恵まれてきた。生き活きとこの町で過ごす私の姿を見て、家族も横瀬町での生活を応援してくれている。充実した日々の中で、今年は定住するかどうかを決断する年になる。協力隊終了後の経済的な基盤も含め、自分自身のこれからの人生と真剣に向き合っている」と語る。その姿勢や一つひとつの

言葉からは、自ら未来を切り拓こうとする強い意志が感じられる。地域、町民、そして自分自身のウェルビーイングを、今、近藤さんはしっかりと見つめている。

等身大の言葉が共感を生む、 ウェルビーイング通信『めくとまる』

大学院で教育人類学を学んだ近藤さんは、人々の価値観や生活様式を“理解する”というより、“ともに感じる”ことを大切にしてきた。地域調査を通じて町の人々対話を重ねるなかで、早速、協力隊の視点から横瀬町の魅力を伝えるウェルビーイング通信を発案する。「読んだ人の心がほっと温くなるように」



志げちゃんとわたしの女子会：WB通信「ぬくとまる」で結ばれた良縁



恵みの会：自分に正直に、まっすぐ生きる、仲良しな愉快な仲間たちが私の誕生日を祝ってくれました！



WB通信「ぬくとまる」がISBbooksのしろくま舎から東京デビュー：右まっちゃん、左いそべさん

と願いを込めて、この秩父地域の言葉で“あたたまる”を意味する『ぬくとまる』と名付け、月1回紙媒体での全戸配布を開始した。

テンポの良い文調と、人間味のある飾らない言葉で綴られた文章が、より一層、読者を惹きつける。『ぬくとまる』は、よく良縁を運んでくる」と近藤さんは語る。創刊当時、秩父弁の『ぬくとまる』という言葉に、「ウェルビーイング」の概念を重ねた近藤さん。その想いに共感し、「近藤さんに会いたい」と連絡をくれた女性と、1年後、ある地域行事で出会うことになる。その女性は、町の歴史や文化に造詣が深い茶道の教授であった。「秩父弁の『ぬくとまる』に込められた近藤さんの想いと、私が茶道で大切にしている想いが同じでした。お茶も熱すぎず、ほんのり温かい方が美味しい。人間関係も同じです。ぬくもりのある温かさが大切なのです」と語った。「一日一日を大切に、人を大事に生きること」。そんな想いを分かち合う二人は、自然と心を通わせていった。横瀬町で生きる二人の出会いは、どの時代にも、どんな場所にも、世代を超え

て共通する価値観があることを教えてくれるエピソードである。

今、JICA 海外協力隊を振り返る

近藤さんにとって、横瀬町でのウェルビーイングの取り組みの原点ともいえるのが、セネガルで培ったJOCV経験だ。「JOCVは援助活動といわれるが、一度もそう思ったことはないんです。現地の先生のことは今でも尊敬していますし、助けられたことの方が多かったです」近藤さんが幼児教育隊員として配属された地域では、かつて、JOCVが活動した実績があった。しかし、赴任してすぐに、その活動成果が浸透していない現状を目の当たりにし、疑問を抱いた。「日本とセネガルでは、教育に対する根本的な概念が異なり、それに向き合っていないことが原因なのではないか」と近藤さんは考えた。「日本の幼児教育は子ども中心ですが、セネガルの先生方は知識中心の教育を行っています。これは、それぞれの国の歴史的・社会的背景の違いからくるものです」だからこそ、

近藤 保子さん プロフィール

2010年度3次隊・セネガル・幼児教育／愛知県出身、名古屋大学大学院教育人類学領域卒業。地方公務員・大手教育民間企業総合職・国際協力等の職を経て、2023年3月から埼玉県秩父郡横瀬町地域おこし協力隊全国初のウェルビーイング担当として着任。

技術移転を目的にするのではなく、「まずは私たちがセネガルの背景を理解することが大切」だと語る。こうした気づきは、実際に現地に足を運び、そこで生きる人々と向き合ってこそ得られるものである。「現地の人たちが何を“本音”だと感じているのか。それを知るには、自分の目と耳、そして心で感じたことを大切にする必要がある。それは、フィールド調査を通して学んだ大きな教訓でしたし、ここでの暮らしにも通じています」と近藤さんは話す。横瀬町で活動する今も、近藤さんの心の中には、セネガルでの経験とそこで育まれた思いが、しっかりと息づいている。かつての日々を振り返りながら、「今も昔も、人に恵まれ、感謝しています」と結んだ近藤さん。いま、新たな人生のステップへと、静かに舵を切ろうとしている

近藤さんへのエール！

むか い
向井夫妻
よしふみ ともこ
(芳文さん・智子さん)



人と人のつなぎ役

出逢ったときは、すごく特別な何かを感じました。どんなに忙しくても人を大切にする、人のために一生懸命になる、そんな彼女の心はどこまでもピュアで、正義感と思いやりに溢れています。ものごとを深く考え、美しい芯のある言葉で想いを伝える『ぬくとまる』は、彼女の人への愛、横瀬町への愛、世界への愛に満ちています。彼女の生き方、人を思いやる愛こそが、ウェルビーイングそのものです。